
逢別。

きつねミルク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
逢別。

【Nコード】
N5685B

【作者名】
きつねミルク

【あらすじ】
昔から考えたくなくて、それでもいつか考えなきゃいけない。そう思っていた事で、自分なりに思い至った考えを綴りました。詩：というほどの物でもないですが：暇な時にでも読んでもらえたら嬉しいです。

(前書き)

駄文ですが、ご了承ください。

人は、皆誰かと逢い、会っている。

家族だったり

友人だったり

恋人だったり

とても大切な誰か
だったり。

いつも気付けば出会う。その誰か達と出会い、学び、楽しみ、癒され、悲しみ、そうすることで互いに成長していく。いつもその誰かと何かしら接触し、感じ思い考える。

その大切な誰かがいるから、今が嬉しく、楽しく、明るい。どんな状況でも何かしら支えられ、思い出すのではないだろうか。その存在が大きいほど、それは強く大切にする。

自分にとって存在があればあるほど、大切に、重要視し、手放したくなくなる。いつの間にか当たり前で、欠かすことが出来ない、考えられない。そんな深いものになっていく。

でも、

誰かに逢う、出会うということは、

いつか別れがあるということ。

それは曲げられない、とっても大事な事実で。怖れても、忌み嫌っても、拒んでも、必ず来てしまうもの。どんなに嫌で、怒っても、もがいても：来てしまう。

やっぱりそれは避けられなくて。当たり前で、仕方のないこと。

悲しみ、苦悶し。

時には八つ当たりもしたり…。そうやって、結局は乗り越えていくしかないのだ。

それでも。

やっぱり…。

自分にとっての大切な人は、やっぱり手放したくはない。
皆、やっぱり…

嫌なものは嫌なんだ。

大切なものを亡くす、失うということは。

だって、苦痛でしかないことだから。楽しい事は何一つ無いから。
目の前のものが全部、霞んでいき、暗く色を失ってしまつて。そんな風に見えてしまつて。見えなくなつて。何も見たくなくなつていく。

そういうものでしかないから。

良いことは無い。

せめて、

今までの気持ち、そのままでもいいのに。ただ、それだけでも助かるというのに。

それさえも、叶わない。

悲しみ、寂しさ。それに虚しく、蹂躪される。

だから、思わずにはいられない。

何故、続いてくれないのだろう？

どうして、このままでいられないのだろう？

どうして、今の幸せなままでいさせてくれないのだろう？

何故終わらなければ…

怒り、そう思う。

居るとも知れない神に向かって…

けれども。

亡くして、失って。辛いと。

「悲壮」

と

「苦痛」

それが深ければ、深いほど

その人は、その存在は大きく。

それほどまでに、それは自分に何かしらを与えてくれた…ということ。

自分にとって手放したくないほど、失いたくないほど。それだけ、大切な何かしらを与えてもらっていたということ。

だから、その心地良い存在を失ってしまいたくなくて。だから、怖れる。

そういうことで。

でもそれを逆に見れば…

それだけの、それだけの心地良いものを与えてもらったのに

その代償は何も無い…

そう、都合良くは行かない。そういうことはないだろうか？

ひたすら悲しく。辛くて。もう耐えられないくらい。

そんなに感じ、苦しむほどまでに、その誰かが大切ということは。

そんなにまで、与えてもらったということだから。

与えてもらっただけの心地良いもの。それだけの幸福。大切な何か。癒し。

それら全てを、与えてもらっておきながら、

「何故、こんな思いをしなきゃならないのか」そう怒り、八つ当たりしても…それは仕方がないのかもしれない。

「苦痛なんて要らない。避けたい」

そう、誰もが思う。

けれど、結局そう都合良くは行かないもので。

避けたい。

しかし、そうも出来ない。

それなら。

いつ絶えるか解らないのだ。それならもう、いつ絶えるか解らない

のだから、解る限りの。予測出来る限りの。
それまでの時間を、大切にするしか術はないのだろう。

それなら。

とりあえず、出来るかもしれないから。

（後書き）

お読み下さりありがとうございました。

共感される方は果たして居るのか居ないのか…（笑）それよりも不快に思われた方いたらどうしよう…；

居たら：スイマセン；

昨夜とあるドラマ見て、考え悩んで至った事を書いたのですが。別れはどう足掻いても、悲しいですよね…。

駄文、失礼しました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5685b/>

逢別。

2011年2月1日15時37分発行